

# SDGs 横浜の挑戦



## 持続可能社会へのツールに

キャッシュレス元年と呼ばれる2019年、さまざまなツールが登場し、イベントと連動させた企画も各地で展開された。保土ヶ谷区の洪福寺松原商店街でも地域経済活性化の可能性を探るイベントが行われた。キャッシュレス化が持続可能な地域づくりにつながるのか、さらなる普及へどんな課題があるか、横浜国立大学経営学部の鶴見裕之准教授と関係者らに集まってもらい、話を伺った。

(司会・春名 義弘)

### 「キャッシュレス元年」座談会



鶴見裕之准教授

消費税引き上げに伴う還元事業もあり、QRコード決済のツールが数多く登場しました。現在の普及状況を教えてください。

鶴見裕之准教授 電子決済コンサルティング「インフキ」の調査では、今年3月のQRコード決済の利用率は11.6%でしたが、10月には35.7%と約3倍に拡大しました。デビットカードが13.14%でほぼ一定なのに比べ、爆発的に増えています。

一方で根強いのが現金主義。例えば音楽のCD。海外では既に電子データが主流なのに、日本では円盤の比率が大きい。モノを大切に取っておく国民性です。加えて、犯罪が少なく、偽札を使いにくく、ATMが発達している。現金で快適に暮らせることも背景にあります。

今回、ポイント還元終了でやめた人と、便利さに気づいて使い続ける人に分かれましたが、両方がいないと3倍にはなりません。

「持続可能な社会に向けて、キャッシュレス化がなぜ必要か、SDGsの観点から説明ください。」

鶴見准教授 一言で言うと、ヒト、モノ、カネの効率の活用です。レジ締めや現金

運搬に掛かる時間や人手が活用でき、ATM、硬貨・紙幣、運搬車両、警備関係など不要な物を減らすことで、環境保全につながります。日本では他国に比べ現金が非常に多く、銀行店舗やATMなど現金の社会コストに税金が多く投入されています。キャッシュレス化によって税金の有効活用が図られます。

「利用率3倍の割に、日常の買い物にまではつながっていかない感じもします。」

鶴見准教授 普及曲線の考え方では、富士山の裾野を登るように進みます。今は、リスク感が低く、新し物好きで、インベーター(革新者)やアーリーアダプター(初期採用者)がかなり使いはじめられています。続くアーリーマジョリティ(前期追随者)の層を突破できれば一気に進みます。登りかけの所に「キャッシュレス」という大きな壁があります。

鶴見准教授 中国では、屋台に紙のQRコードが置いてあり、お年寄りが普通に使っています。タクシーでは運転手にもポイントが入るなど、使う方、売る方の双方にメリットがあるほか、お年玉など個人間の支払いにも使われています。日本でも飲食の割り勘のほか、家賃、医療費、公共料金へ広がればと思います。

——I.T系、金融機関系、中国系などいろんなペイメントが登場し、戸惑います。どんな視点で選べば良いですか。

鶴見准教授 中国では、屋台に紙のQRコードが置いてあり、お年寄りが普通に使っています。タクシーでは運転手にもポイントが入るなど、使う方、売る方の双方にメリットがあるほか、お年玉など個人間の支払いにも使われています。日本でも飲食の割り勘のほか、家賃、医療費、公共料金へ広がればと思います。

鶴見准教授 中国では、屋台に紙のQRコードが置いてあり、お年寄りが普通に使っています。タクシーでは運転手にもポイントが入るなど、使う方、売る方の双方にメリットがあるほか、お年玉など個人間の支払いにも使われています。日本でも飲食の割り勘のほか、家賃、医療費、公共料金へ広がればと思います。

## 一層の普及へ工夫必要



キャッシュレス化の意義や課題について語り合った座談会

山崎幸晴室長 日々の買い物、特に地元の商店などで使っていた大口座に育てていくのが、私どもがQRコード決済に取り組む理由です。ペイメントの乱立状況を解消するために、大きな流れとして、QRコードをJ-PQRに統一化していく検討も予定されています。事業者によって温度差がありますが、早期に実現するよう取り組みます。

伊藤彰芳理事長 洪福寺松原商店街は80店舗。QRコードが使え約20店舗です。日銭商売の店も多く、特に生鮮食品の店では、手持ちの現金がないと、翌日、市場の仕入れができない事情があり、キャッシュレス化を提案しても断られます。回転していけないのですが、踏み出せないようです。しかし例えば、デパ地下の生鮮売り場でキャッシュレスが普通になる一方で、商店街で使えないと、お客を逃してしまふ。そんな時が来ますよ、と説明してもなかなか気づいてくれません。

伊藤理事長 使う側も使われる側も、先入観を取り払うことが重要です。例えばQRコードを使う際、楽しく、ためになる仕掛けを取り入れ、抵抗感を取り払う流れが作れたらと思います。決済業者では気づかない、変わった使い方が必ず出てくるはずですよ。

◎座談会出席者  
横浜銀行デジタル戦略部決済ビジネス戦略室室長 島山 幸晴  
横浜保土ヶ谷区総務部政推進課長 宮本 薫  
洪福寺松原商店街振興組理事長 伊藤 彰芳  
横浜国立大学経営学部准教授 鶴見 裕之  
横浜国立大学大学院国際社会科学府 横濱国立大学経営学部 新井 啓矢

(右から、敬称略)  
島山 幸晴  
宮本 薫  
伊藤 彰芳  
鶴見 裕之  
新井 啓矢

## こんな未来の横浜を

### 環境大賞に高砂さん

「SDGs未来都市・環境絵日記展2019」が8日、中区の大さん橋ホールで開かれた。1万5314点の応募の中から大賞に選ばれた、横浜国立大綱小学校3年の高砂凜子さんの「緑いっぱいな横浜はま」など、優秀作品約600点が一室に展示された。横浜市資源リサイクル事業協同組合主催、横浜市共催。

今回は「みんなでつくるSDGs未来都市をテーマに、市内の小学生らに「こんな未来の横浜になったらいい」を考え、絵日記で表現してもらった。



環境絵日記大賞に選ばれた高砂さんの作品

高砂さんの作品は、祖父の住む山梨のように緑あふれる街になった未来の横浜を、宇宙人が上から眺めている様子を描き、「横浜はまに緑がもつと、心えたら人も生き物も今より気持ちよくなる、えがおでへらせると思っています」と書いた。今年環境絵日記20年目を記念して、小学生による「環境大賞」が発表された。

大賞以外の主な優秀特別賞受賞者は次の通り。

- ▽市長賞 雑賀絢香(三ツ沢小6年)▽市会議長賞 三上海惺(大岡小5年)▽市資源循環局長賞 中富小夜子(金沢小5年)
- ▽市長賞 廣瀬こまち(中田小3年)▽市温暖化対策統括本部長賞 河井咲良(あざみ野第一小6年)▽市環境創造局長賞 柴崎永圭(小田小4年)▽市水道局長賞 長倉若葉(都岡小4年)▽市港湾局長賞 岡崎航士(間門小3年)▽市経済局長賞 吉田真渡(上大岡小6年)

(春名 義弘)

《次回は2020年1月22日掲載予定》



### 持続可能な力 すぐ便利生活

と、歌手加藤登紀子さんが「この頃の明かりだけの本堂でトークを繰り広げた。アフガニスタンで銃撃され死亡した医師中村哲さんの追悼も込めた話は、心に染み入るものばかりだった。特に印象に残った話。」

(「SDGs横浜の挑戦」編集長 春名 義弘)



ために①土(地)を奪つ②家族をばらばらにする。つまり人と人、人と自然を引き離すのだという。翻って、過度に便利を追い求め、人間関係を薄めた都市生活は、自ら持続可能な力をそいでいるのではないか。